第 4 回 10/18　「niconico サービス志向（ネット時代のメディア変革）」

杉本 誠司（すぎもと・せいじ）**先生**　　**株式会社ニワンゴ　代表取締役社長**

ニコニコ動画を運営するニワンゴの代表取締役社長。
1967 年 3 月 31 日生まれ。
気象情報会社のウェザーニューズなどを経て、
2003 年ドワンゴに入社。
モバイル向けのビジネスツールや電子書籍サイトなどの
新規事業を担当し、メールポータルニワンゴの立ち上げに携わる。
2007 年 12 月社長就任。動画サイト「niconico（ニコニコ動画）」の
運営指揮にあたる。
株式会社ドワンゴ　広報部長　株式会社ドワンゴコンテンツ
ニュースプラットフォーム部長。株式会社ニワンゴ代表取締役社長。

《講義概要》

株式会社ニワンゴの代表取締役社長として、動画サイト「ニコニコ動画」の運営を手掛ける杉本誠司氏が、「niconico サービス志向（ネット時代のメディア変革）」をテーマに講義を行った。講義ではまず、ニコニコ動画について、「動画という共通の話題を通じネット上で多くの人と繋がり、出会いの機会を体感する場」であり、コンテンツをユーザー自らが生み出す「コンテンツ・エコサイクル」が原動力となっていると言及し、そのコンテンツ・エコサイクルを支えるプラットフォーム構造についても分かりやすく解説した。ユーザーの活動を活性化させる環境を整えることが運営側の大切な作業であり、権利許諾に関する施策やクリエイターを後押しする創作支援施策等様々な取組みを紹介した。また、SNS の流行の根底には「自己認識欲」が存在し、新たなメディア構造を生み出していることを示した。

続いて、ネット時代における著作権の考え方や権利問題への対応について詳しく解説し、ユーザー、事業者、権利者による著作物に対する話し合いが行われている実態を紹介。日本の強みであるクリエイティビティを守り、海外で活躍する人材を育成するためにも二次創作物等に対する相互理解を深め、新たなルール作りを行うことが重要なポイントであると言及した。企業主導から消費者主導という経済原理の変化に伴うメディア変革の現況を示すとともに、学生はネット時代の著作権のあり方について新たな視点で考える機会となった。

《受講生の感想》

●ソーシャルネットには、コンテンツによるお互いの行為、存在の認識、評価によって自分の存在（価値）を認識したいという自己認識欲が本質にある事を理解できたし、納得した。さらにニコ動ではユーザー活動（主にクリエイター）活性化に向け、音楽著作権の包括的許諾計画が行われ、より、クリエイティブなコンテンツを見ることができるよう、許容していくことに個人的にもの凄く良いことだなと思った。白黒はっきりさせるのではなく、グレーゾーンをそのままにしておくことも必要であることを理解することができた。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●ただ動画を共有してコミュニケーションを取るだけでなく､色んな人が色んなコンテンツを作っていける、クリエイティブなものをどんどん作れる場を作りたいという意識が素晴らしいと思った。著作権における問題も複雑で、莫大な数の動画を全て管理するのは不可能だし、制限することでクリエイティブの才能が閉じ込められてしまうかもということも考えると著作権の管理は更に複雑で難しいものになってしまうだろうと思った。　立命館大学・産業社会学部・2回生

●現代社会はグローバル化がますます加速し､人と人、企業と人などの繋がりが広まる一方で､｢個｣の存在がとても小さなものだという認識が芽生えるように思う。そこでニコ動は自己の存在を認識する欲求を満たす絶好の場となるのだと思った。今日の内容を参考に今後の学びを広げていこうと思った。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●色んなコンテンツが入り交ざったエコシステムを支える構造として、音楽に関する著作権の使用許諾をとっていたり、レコード会社と契約をしていることはなんとなく知っていましたが、その中心にあるコンセプトとして杉本先生が何度もユーザーがニコニコを通じてコミュニケーションをとっていくためだと仰っていたことがとても印象に残りました。市場経済形成が企業から消費者によるものに変わってきた背景をより詳しく知ることができ、とても興味深い講義でした。

立命館大学・映像学部・2回生

●ニコ動は主体がユーザーであり、動画投稿者とコメ投稿者と見るだけのユーザーの三者が相互に評価認識したい欲求から生まれる究極のコンテンツエコシステムを含んだ強力なコンテンツだと分かった。ニコ動から生まれたジャンルやコンテンツは一定の動画数を超えると支援金をもらえたり、ニコニコ超会議といった運営側ではなく、ユーザー自身が作り出すイベントによって、さらにニコ動への帰属性が強くなる仕組みはコンテンツが長続きする新しい方法だと思った。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●著作権に関しては本当に難しい問題だと思います。ユーザー活動中心のコンテンツは創作力を発揮する場所であり、特技を活かす場としてはすばらしいと思います。著作権のお話はとても分かりやすくて勉強になりました。気分よく利用していけるように個々がマナーを守ることは大切だと思います。

立命館大学・映像学部・2回生